

順正高等看護福祉専門学校

令和元年度自己点検・自己評価報告書

I. 基本事項

本校の教育方針

建学の理念の具現化を目指して、以下の教育活動を展開する

1. 受験生の増加を計り、入学定員を確保する
2. 中途退学者 0 名、留年生 0 名をめざす
3. 卒業生全員が国家資格を取得し、希望する進路に進める
4. 学生の自律・自立を促す教育実践を行う
5. 講義・演習・実習へと進む学習体系に適応できるよう、種々の工夫を学生視線で構築する
6. 主要項目の具体的活動を活発にするため、プロジェクトを立ち上げ、PDCAを実践する
 - (1) 国試対策
 - (2) 入試広報(オープンキャンパス再考)
 - (3) カリキュラム検討
 - (4) 教員研修検討

学生に関する情報

学生数(2019年5月1日時点)

学 科	人 数	内 訳		
看護学科	111 名	1年 38 名(男子 12)	2年 30 名(男子 10)	3年 43(男子 13)
介護福祉学科	17 名	1年 7 名(男子 2)	2年 10 名(男子 4)	

居住状況(2019年4月調査)

自宅通学	自宅外(学校寮/アパート等)
42 名	86 名

卒業生数(2019年度中)

看護学科	介護福祉学科
38 名	10 名

就職状況(2020年3月末調査)

岡山県内就職者数	岡山県外就職者数	進学者数
看護 17 名 介護 8 名	看護 16 名 介護 1 名	看護 1 名 介護 0 名

Ⅱ. 各事業の概要

1. 教育関係

(1) 基礎学力強化を図るため、各学年における教育課題を明確にし、一貫した指導と実践評価を行う。

<看護学科>

1) 国家試験対策プロジェクトを中心に、受験者の100%合格を目指す。

①指導内容の統一

講義・実習での指導内容の精選と指導の質的レベルを一定にする

②教員一人ひとりが責任と役割を自覚し指導する

学生の到達度と課題を明確にしたうえで、1～3年までの各学年計画を一覧にし、計画に則り取り組んでいく。学生個々の成果が出るように、学生指導を行う。

【点検・評価】

臨地実習が終了し、国試対策授業を計画的に導入。出題基準と対比しながら、授業内容を計画立案し国試対策に取り組んだ。

学生の状況を捉え、指導方法を工夫しながら100%合格を目指したが、結果は86.5%にとどまった。

2) シラバスを活用し重複・不足を確認するとともに不足内容は補足していく。また、国家試験出題基準に照らして、教科内容・カリキュラムを検討する。

【点検・評価】

本年度のシラバス内容を見直すとともに、看護基礎教育検討会報告書を参考にカリキュラムの検討を継続して行った。

<介護学科>

1) 国家試験の100%合格を目指し、学生個々の学習進度に合わせた丁寧な指導を行う。
学生理解

【点検・評価】

定期的な模擬試験、ミニテストを実施し、学生個々の学習進度の把握を行った。
講義が理解できていない学生には、ノートのまとめ方学習方法を指導した。

2) 2年間を通して必要十分な知識・技術の習得

【点検・評価】

各領域の教員が連携し、科目間で連動した教育が実施できるようにした。
各学年で、学生の取り組みを分析し、指導計画に基づいて実施した。

3) 教育内容の充実

【点検・評価】

シラバスを活用し、重複・不足を確認した。

(2) 学外講師の意見や助言、示唆を尊重する。

【点検・評価】

<看護学科>

講師連絡会議を予定通り実施した。学生の現状を踏まえ、授業中の様子など意見を聞きながら学習力向上のための示唆を得て学生指導に活かすことができた。

また、今年度は高梁地区の病院での実習も多く組み込んだこと、訪問看護実習での学生のマナーなどに問題が生じたこともあり、対象病院・施設を変更し臨地実習指導者会議を開催した。各実習施設の代表者より有益な意見をいただき、学生指導への示唆をいただくことができた。

<介護学科>

学外講師との連携を図るために、講義前後の時間に情報交換を行った。講師連絡会議を実施し、学外講師と本校教員の情報交換を行った。

(3) 保護者と密な連携をとり、ともに学生を支える関係を作る。

保護者とチューター間関係を構築し学生支援に当たる。日頃から、学生の状況を把握し必要に応じて保護者を交えた面談の実施、教育後援会および継灯式(1年)後の個別懇談を実施する。メンタル面での問題に対しては、精神の専門教員が面談をし、保護者とも連携をとりながら、支援を行っていく。

【点検・評価】

<看護学科>

学業成績、出欠状況や学内で気になることがあれば、保護者と連絡を取りながら学生指導に当たった。

<介護学科>

学生を通し、学習状況・出欠状況を伝え、必要であれば保護者との連絡を取ってきた。

(4) 学生には丁寧な説明を心掛け納得・合意が得られるよう関わり、信頼関係を育てる。

教員一人一人が、授業や実習、ホームルーム、個人面接等を通して、その都度学生への説明と同意を得ながら物事を進める努力をする。また状況により、チューターのみでなく、学年団や役職教員が関り調整する。

【点検・評価】

学生の反応を確認しながら、学生が理解できるように説明し同意を得ながら物事を進めることができた。

(5) 低学力の学生には、個別指導・補講・学習の仕方などの教授を計画的に企図・実行するとともに、学年ごとの学力向上に向け取り組む。

<看護学科>

1年：ポートフォリオを活用し学習習慣が身につくよう支援する

入学前サポートでのワークブックを活用し、基礎学力の充足を図る。

解剖生理学の授業の後には、学習内容の復習のための学力対策を実施し、苦手意識を克服し学力向上に努める。

2年：国家試験の過去問を活用し、求められる知識・判断力を自覚できるように指導す

る。

学習したことが実習の事前学習に活用できるよう、学生の個々の状況をふまえながら指導する。

3年：模擬試験を有効活用し、合格圏に入れるよう成績状況をふまえ学習をサポートする。実施した模擬試験の見直しを行い、確実に知識が身につくよう指導する。

臨地実習での学びが、国家試験に直結することを意識させ、実習前・後の時間で出題基準や過去問を活用した試験を実施し、学力強化を図る。

【点検・評価】

<看護学科>

1年：課外で学力対策のための学習会を定期的実施。学生が自ら学べる姿勢を身につけられるよう指導に当たった。

2年：学修してきた内容をふまえて、国試に結び付けながら、課外で学力対策に取り組んだ。有料ではあるが、学外講師を招き学習方法や弱点克服ができるよう指導した。

3年：学生の状況に合わせた学習方法などを指導するとともに、個別指導を取り入れながら学力強化に取り組んだ。

<介護学科>

1年：提出期限を設けた課題やミニテストを実施した。

2年：定期的模擬試験を実施し、学生の学力を分析した。個別の学習計画を立て、学生が計画的に学習できるようにした。

留学生：4時間／週の日本語学習を受講している。それ以外にも個別に日本語学習の時間を設けた。日本語強化学習としてロールプレイ、宿泊研修を実施した。

2. 研究関係

(1) 看護教育評価を行い、学会等への投稿に取り組む。

継続して教育評価を行い、来年度に向けたレビュー作成につないでいく。日本看護教育学会に発表が決定している。

【点検・評価】

日本看護教育学会で発表を行った。今後、岡山県看護協会高梁支部での発表ができるよう取り組んだ。

(2) 学会、研修に各自参加し、看護・介護教員としての教育力・指導力の向上が専門職者育成に寄与できるよう努力する。

各教員が教員継続研修会、学会、国試験対策セミナーに参加し、教育力向上に向け自己研鑽に努める。

【点検・評価】

各教員が、研修会に参加し自己研鑽に努めるとともに、教育に還元できるよう取り組んだ。

(3) 学生が持つ問題や課題を学生自身が解決できるような教員のかかわりについて事例検討を通して学ぶ。

看護学科・介護学科共通で、指導力強化チームを立ち上げ、学生の理解と関わりや教員自

身のストレスマネジメント、事例検討など定期的に勉強会を持つ予定である。

【点検・評価】

検討会を10月12日土曜日に実施した。

3. 就職・進路指導計画

(1) 看護学科・介護福祉学科共に最高学年を対象に進路ガイダンスを数回実施し、将来の目標、適性等考慮して自己の進路決定、選択ができるよう指導する。

進路ガイダンスを3月から5月にかけて実施する。進路希望調査(第三希望まで)を行い具体的な就職指導を行う。

【点検・評価】

就職希望者全員が決定した。

(2) 履歴書の書き方、小論文の書き方、面接要領等を具体的に指導する。進路ガイダンスでは、外部講師による就職活動の進め方と履歴書の書き方の指導。

また、教職員による個別指導の他にも、ハローワーク相談員による個別対応(予約制)を行う予定である。

【点検・評価】

外部機関を活用し自己分析・職業適性検査や履歴書作成のポイントを学んだ。

4. その他の事業

(1) 校舎及び設備の老朽化に対処し、備品の更新を適切に行う。また、実習用具とその附属品の破損等をチェックする。

【点検・評価】

実習用備品とその附属品の破損等をチェックし、適宜、教具の修理を行った。3年間計画の図書閲覧室のPC更新を完了した。

(2) 老朽化の進む学生寮(たかはし寮)を段階的に整備し、住環境の改善を通して寮生の満足度を高め、入寮者の増加を図る。

【点検・評価】

厨房の衛生確保のために、レンジフードの塗装剥離防止と、排水ドレンのバキューム清掃を行った。